

男女共同参画センターを生かした広域避難者のつながりづくり  
(さいがい・つながりカフェ)  
～埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま) ～

1 調査対象と取組の概要

ヒアリング先	埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)
取組のポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 埼玉県に広域避難してきた避難者が「そこに行けば情報があり、ほっとできる場をつくること」を目的として、平成 24 年 9 月から月 2 回、埼玉県男女共同参画推進センター「With You さいたま」で「さいがい・つながりカフェ」を開催している。</li><li>▶ カフェの運営は、ボランティアで構成される実行委員会が担い、活動費は助成金や寄附金で賄っている。「With You さいたま」は、会場の提供や、職員による運営の側面支援、広報協力などを行っている。</li><li>▶ 参加者は 50～60 歳代の女性が中心だが、夫婦での参加や、子ども連れの女性もみられる。また、活動に共感する様々な支援者が自発的に集まり、アロママッサージ、お茶、化粧など特技をいかして参加者と交流している。</li><li>▶ 参加者からは、「知らない地域に来てつながりがない中、カフェにきてようやく人と話すことができた」、「同じ立場でないとなかなか不安を話せない、ここがあって良かった」といった声も聞かれている。一方、実行委員会形式により運営しているため、人材・資金等の運営基盤の強化・安定が今後の課題である。</li></ul>
ヒアリング日時	平成 25 年 1 月 10 日

2 活動・事業のきっかけと準備

近隣のさいたまスーパーアリーナが広域避難所になり、センターのシャワー室等を提供

- ✓ 平成 23 年の東日本大震災において、発生 5 日後に当たる 3 月 16 日に、埼玉県がさいたまスーパーアリーナを東北からの広域避難者を受け入れる大規模避難所に指定し、主に福島県からの避難者の受け入れがはじまった。
- ✓ さいたまスーパーアリーナは、埼玉県男女共同参画推進センター「With You さいたま」から徒歩 5 分と、ごく近くに位置する。避難所となった施設で、所狭しと大変な状況で滞在している被災者を支援したいと多くのボランティアが集まる中で、「With You さいたま」のボランティアスタッフなどから、同センターの施設を被災者支援のために

使わせてもらいたいとの声があがった。

- ✓ そこで、「With You さいたま」では、アリーナでの避難者の受け入れが終了する3月末までの間、施設内のシャワー室及び休憩所を被災者に提供することとした。2週間で約1,200人の被災者がシャワーを浴びたり、休憩室を利用したりし、その運営には多くのボランティアが関わった。

### **アリーナから出た避難者たちの今後に気になって**

- ✓ 平成23年3月末にアリーナの避難所閉鎖に伴い、「With You さいたま」のシャワー室等の開放も終了した。
- ✓ その後、埼玉県男女共同参画推進センターの職員が県内の避難所を回り、相談窓口の情報提供などは行っていたが、県の男女共同参画センターとして、アリーナへ避難し、その後県内に住んでいる広域避難者に何か支援ができないか模索する日々が続いていた。避難所で生活している間は支援を必要としている人が見えるが、地域の中にそれぞれ住み始めると、どこに住んでいるのかを把握することも難しく、支援ニーズも見えなくなってくる。
- ✓ 一方で、避難者の中に子ども連れの女性が多いこともわかっていたため、そうした人達への支援の必要性も感じていた。加えて、阪神淡路大震災では仮設住宅へ移行後、男性の孤独死が大きな問題となったことも懸念された。
- ✓ また、アリーナでの支援活動に関わったボランティアからは、センターに継続的に何かできないかという働きかけが行われていた。そのような中、名古屋市の男女共同参画センターで避難者の交流事業を始めたとの情報を得て問い合わせたところ、実際に人が来ることも大事だが、それ以上にこうした集いの場があることを発信することが、避難者の心の支えやよりどころとなるという意味で重要である、とのことであった。

### **「さいがい・つながりカフェ」の事業化に向けて**

- ✓ 「With You さいたま」では、名古屋市男女共同参画センターの取組を参考に、同センターの施設を活用して、県内の避難者の交流の場「さいがい・つながりカフェ」を開くこととした。
- ✓ 平成23年6月に、全国女性会館協議会の東日本大震災女性センターネットワーク募金事業に応募・採択され、その助成金を23年度の活動費に充てた。なお、24年度は助成が得られなかったこともあり、寄附により活動費を賄っている。
- ✓ 事業の企画及び運営は、ボランティアからなる実行委員会形式で行うこととし、代表は「With You さいたま」のボランティアスタッフが担った。実行委員会形式としたのは、その方がスピーディーに小回りがきく活動ができると考えたからである。実行委員会には代表者のほか、個別の声かけにより同センターのボランティアスタッフなどを含め、7名程が参加した。このうち、「With You さいたま」の職員も実行委員に加わり、行政の職員として運営を側面支援する役割を担っている。

### 3 活動・事業の内容

---

#### 事業が軌道に乗るまで

- ✓ 「さいがい・つながりカフェ」を開始する前の平成23年8月、全国女性会館協議会の助成金を活用して、埼玉県加須市の旧騎西高校に避難している避難者を、県内にある国立女性教育会館（NWEC）の施設開放へバスで行く保養事業を行った。避難者には大変喜んでもらい、そこで避難生活での様々な苦勞を聞くことができた。
- ✓ 同年9月からは、月に2回定期的に、11-15時の時間帯で「With You さいたま」の和室で交流事業「さいがい・つながりカフェ」を開始した。「With You さいたま」は、会場の提供、職員による活動の側面支援及び広報協力を行っている。
- ✓ 開始から約半年間はあまり人が来ない状況が続いたが、平成24年1月に国立女性教育会館で開かれた、避難者や支援者が集う場でカフェの活動を紹介したことがきっかけとなったのか、それ以後参加者が増え始めた。25年1月現在、5~60歳代の女性を中心に毎回15~20人程度が参加しており、夫婦での参加や、幼児を連れてお母さんの参加もみられる。

#### 形式ばらず気軽に集える場として運営

- ✓ カフェは、「そこに行けば情報があり、ほっとできる場をつくること」を目的に、実行委員が中心となって運営している。進行の段取りやテーマは決めず、自由に気軽に集える場として設定している。
- ✓ 避難者以外に、毎回ボランティアでアロママッサージやお茶、お化粧品など、様々な特技を有する支援者が参加しており、避難者同士の交流のみならず、避難者と支援者、支援者同士の交流の場にもなっている。
- ✓ 現在は、「With You さいたま さいがい・つながりカフェ実行委員会」が主体となり、県内の他の避難者支援のグループなどと連携し、加須市、羽生市、新座市、春日部市などでもつながりカフェを開催している。
- ✓ また、つながりカフェの他にも、県内各地で、避難者の交流会が開かれており、それらの横のつながりもつくられている。
- ✓ 定期開催しているカフェには常連となっている参加者もおおり、参加者同士のつながりが強まっている。参加者同士が自主的に呼びかけて、バスツアーに行くなどの取組もみられている。
- ✓ 参加者からは、「知らない地域に来て知らない人ばかりの中で、カフェのことを知り、ようやく人と話すことができた」、「先行きが見えない不安など積もりに積もっていたものが、カフェの場に来て話すことで気持ちが切り替わり、この後のことが考えられるようになった」「同じ立場でないとなかなか不安などを話せない。ここがあって良かった」といった声が聞かれている。

「さいがい・つながりカフェ」の様子



#### 広域避難者に対する広報活動の難しさ

- ✓ 活動の対象となる広域避難者への広報活動には、大変苦慮した。「さいがい・つながりカフェ」を開始した当初から、ツイッター、ラジオ、ローカルテレビでの情報発信や県内の女性関連施設へのチラシ配布など様々な方法を駆使して広報活動を行ったが、反応は少なかった。そうした中で効果が大きかったのは、やはり避難者が集まる場へ出かけ、そこで広報することであった。
- ✓ また、埼玉県内で他の支援団体が福島からの広域避難者向けに作成している情報誌に、活動を紹介してもらえたことも大きい。情報誌では、埼玉県内で様々な展開されている支援活動を紹介しており、「さいがい・つながりカフェ」の開催日時・場所が掲載されている。この支援団体同士のネットワークの中に「With You さいたま」も入ることができたことで、様々な支援団体と交流や協力の機会を持つことができ、お互いの情報発信力も増している。

## 4 活動・事業の成果と課題

---

#### 様々な「つながり」を生み出すきっかけに

- ✓ 被災地から避難し、知らない地域では孤立しがちで、人とつながることを求めながらもなかなかきっかけがない人に対し、カフェを通じてそのきっかけを生み出すことができたことが大きい。困難な状況に置かれている人ほど、自らつながる機会を作り出すことが難しい場合も多く、公共施設を活用した活動として行政が支援することは有意義であると考ええる。
- ✓ 活動を通じて、様々な支援グループやボランティア団体等とのつながりもできてきている。協力や交流の関係を持つ中で、お互いを理解し、広報協力や運営などの面も含めて助け、助けられる関係を築くことができてきている。

#### 災害対応における男女共同参画センターの役割の認識と発揮

- ✓ 「さいがい・つながりカフェ」を通じて、男女共同参画センターの有する施設・設備

- を活用した場の提供、情報発信力、支援グループや支援者間を結びつけその力の発揮を側面支援する機能など、災害対応の場面におけるセンターの役割について認識を深め、役割を果たすことができたと考えている。また、男女共同参画センターが被災地の人達がつながる機能を持っているということを発信できたことも成果と考えている。
- ✓ 活動を通じて避難者や支援者の様々な声を聞く中で、「防災と男女共同参画」という観点で、男女共同参画センターとして情報発信すべき題材が明らかになってきたことも成果の一つといえる。